

空から平戸の未来を描く

技能認証を受けた飛行形態	
人または家屋の密集している地域の上空	
人または物件と30メートルの距離が確保できない飛行	
地表または水面から150メートル以上の高さの空域	
進入表面などの上空の空域	夜間飛行
目視外飛行	催し場所上空の飛行
危険物の輸送	物件投下



即戦力の養成所として出発
 令和3年5月、北松農業高校と田平まちづくり協議会、株式会社 Flight PILOTの連携で、北松農業高校ドローンスクールが開講しました。

平成29年度、田平まちづくり協議会から北松農業高校へドローンが貸与され、スマート農業教育を念頭に授業での活用が始まりました。

令和2年度には、「ドローン講習会」を開催し、7人の生徒が「無人航空機飛行の許可・承認」を取得できました。そして令和3年度、これまでの実績を活かし、受講者に認定証を交付可能な「ドローン講習団体」として出発することとなりました。

高校で国土交通省から認定を受けたのは県内初、公立高校では全国で3校目、その中でも全9科目の飛行形態の技能認証を受けた公立高校は、全国初となります。

生徒たちはここで、ドローン操縦に必要な知識と技術を学び、社会へと羽ばたきます。



北松農業高校ドローンスクール

概要		
■ 開講日	令和3年5月12日(水)	■ 指導体制
■ 場 所	長崎県立北松農業高等学校 農場講義室	■ 主 催
■ 講義内容	座学(ドローン操縦に必要な知識の学習) 実技(ドローン操縦訓練)	教官3人 長崎県立北松農業高等学校 田平まちづくり協議会 株式会社 Flight PILOT

〒857-0511 北松農業高等学校 ☎57-0511



田平まちづくり協議会

事務局長 まえだ ひろし 前田 洋志 さん

「地元で力を合わせ
盛り上げていきたい」

田平まちづくり協議会では、平成29年の発足当初から、ドローン事業に取り組んでいます。地域PRのための空撮や、農家の農業散布のお手伝いなどを通して、地域の皆さんのお役に立てる事業を展開したいと思っています。

また、地域課題を解決するために、地元、北松農業高校へのドローン貸与をはじめ、航空法の講習や操縦方法の指導など、次世代の担い手に対する教育にも力を入れているところです。

今回開講した国土交通省認定ドローンスクールでは、技能認定証を交付できます。ドローン技術を活用した農業や、仕事に生かせるスキルを身に付け、広い視野での将来の職業選択に役立ててほしいと願っています。

これからも、生徒の皆さんの「やる気」をバックアップし、地域・社会を共に盛り上げていく人材の育成に全力で協力します。



株式会社 Flight PILOT

代表取締役 かわかみ たかゆき 川上 貴之さん

「空を舞台に
農業革命を」

私たちは、佐世保市江迎町を拠点として、全国のドローン活用事業をサポートしています。

近年、建設現場や災害時の支援などさまざまな分野でドローンが活用されていますが、最もドローンの活躍が期待されているのは農業分野です。これまで、大規模な機械で長時間を要した作業が、ドローン1機による短時間の作業で済むだけでなく、空からの分析により最適な成育を促すことで、より質の高い農作物を生産することができるようになります。

農業の担い手不足が叫ばれる中、農業高校でドローンについて学ぶことはとても意義深く感じます。生徒の皆さんに、省力化や生産性向上といった「農業革命」に繋がるような研究をしてほしいと思い、北松農業高校への講習団体認定に協力しました。

そして近い将来、空を舞台に一緒に働く人材が育ってくれることを願っています。

「地域農業を
支える人材に」



北松農業高等学校

教諭 はまの いちろう 濱野 一郎 先生

近年、農業は高齢化・後継者不足など深刻な問題を抱えており、先端技術を用いた「スマート農業」が注目されています。特に市内では、急勾配の斜面にある農地が多く、耕作放棄地が増え続けている現状があり、次世代の農業を担う本校生徒への期待は高まっていると感じます。また生徒たちにとっても、最先端技術の1つである「ドローン」に触れる機会ができたことは、学習意欲向上や進路決定にも役立つものと考えています。

私たち教員もドローン教官の認定を取得したことで、学校単独での講習が可能となりました。また実際に認定取得のための学習を経験したことで、より生徒に寄り添って助言できます。これから生徒たちと共に、ドローンをはじめとした「スマート農業」の今後の可能性について研究していくことで、農業に興味を持ち、さらに将来の農業について考え行動してくれることを期待したいと思います。

ドローンスクールで生徒たちは、地上からだけでなく、空から自分たちの学校やまちを眺め、さまざまな課題について学び、社会へと巣立っていきます。ここでは、指導者の皆さんに、これからの展望を伺います。

変化する時代に
求められる技術で
平戸から世界へ飛躍する



生徒たちは、
課題を解決する
知識と技術を身につけ、
将来の地域社会を
担う一員として、
力強く羽ばたいていきます。

～ ドローン操縦を学ぶ生徒たちの思い～



「技術をさらに磨き
農業に活かしたい」
山川 哲平 さん
(生物生産科・3年生)

昨年度のドローン講座から参加して、ドローン歴2年目に突入しました。最初に比べ、ドローンの操縦にもだいぶ慣れてきましたが、正確な操縦をするにはまだまだ練習が必要で、もっと上手になりたいと思います。3年生になってから開講したドローンスクールに申し込みました。

祖父母が米とイチゴを生産する農家で、幼いころから手伝ってきました。将来は家業を継ぎたいと考えていますが、まず卒業するまでに「目視外飛行」「物件投下」など、新たな技術を身につけたいと思っています。高校卒業後は農業大学校へ進学し、ドローンをはじめ農業に関する技術をたくさん学びたいと思います。そして平戸に戻り、農業の活性化に役立てられるよう、これからも頑張っていきます。

中学3年生のころに作文を書くために調べたとき、ふるさとの平戸には、歴史や文化に彩られた風景や四季折々の食材など、たくさん魅力があることを知りました。それ以来、ふるさとの魅力を発信する仕事をすることが私の夢になりました。

最近、ドローンを使用した動画を見る機会が増え、私も平戸の美しい風景などを撮影してみたいと思っていったときに、ドローンスクールが開講されることを知り、「参加するしかない」と思い申し込みました。

実際に操縦すると、少しだけ動かしつづもりが大きく動いてしまったりと、加減がとても難しく感じます。今はまだ、ドローンに触れるのが怖いですが、授業を通して自在に操れるようになり、将来、平戸の魅力を発信していきたいと思っています。



「ふるさとの魅力を
発信していきたい」
竹田 ほなみ さん
(生物生産科・1年生)



「スマート農業で
平戸の農業に貢献したい」
松山 勇斗 さん
(生物生産科・1年生)

物心がついたころから家の畜産業や農業を手伝う中で、将来は家業を継ごうと思うようになりました。中部地区にはたくさん農地がありますが、高齢化や後継者不足などで、耕作放棄地が増えるのを寂しく感じ、スマート農業で地元を活性化したいと思っていますので、迷わずこのドローンスクールに申し込みました。

色々な農機具を操作をする中で、機械を扱うことにはある程度自信がありました。空中に浮くドローンの操縦は繊細で、とても難しく感じます。授業を受ける中で、まずは基本的な操縦に慣れていきたいと思っています。

そして将来的には農業散布や運搬などスマート農業で平戸を活性化できるよう、さまざまな知識や技術を習得していきたいと思っています。



1_ドローンでの農業散布
2・3_室内でのドローン操縦体験

